

第2章

日本・中国青年親善交流事業 「日中代表ユースフォーラム」

資料編

事業評価アンケート

I 趣旨

本年度事業の成果を測るため、日本参加青年全員を対象として事業終了時にアンケート評価を行うとともに、事前研修及び事後研修時に、能力向上等に関する自己評価の変化について比較調査を行った。

事業終了時のアンケート評価の数値基準は、5段階評価（評価の高い方から5～1）を基本とした。また、日本参加青年の自己評価の変化に関する比較調査については、他の調査との比較の観点から6段階評価（評価の高い方から6～1）を基本とした。

II 評価結果

1. 事業目的の達成度

①プログラムの満足度

「中国青年との意見交換会（日中代表ユースフォーラム）をどのように評価しますか」との問いに対して、日本参加青年の多くが5段階評価の4（良かった）以上を付けたが、一部の青年は3（どちらでもない）、2（悪かった）、1（とても悪かった）を付けた結果となった。

日本参加青年からは、「普段交流することのできない方々と交流の機会を頂けたことで、中国に関する今までは知り得なかった文化や価値観を理解することができた。」「実際に中国参加青年の意見は自分がイメージしていたものとは異なっていたり実際に中国で何が起きているのかを把握できていなかったりしたため、新しい発見ができたことが非常に良かった。」「日中両国青年が真剣な態度で交流に臨み、お互いの国や取り組みを知る有意義な時間にすることができた。」などのコメントがあった。

これらの回答から、日本参加青年は中国参加青年との交流を通し、新たな発見や理解を深めた経験を得たことが窺える。

一方で「中国の社会事情や文化を知ることができたが、限られている時間のため、どうしても深い話をすることができなかった。」といった感想もあり、限られた時間の中での交流に制限を感じた日本参加青年もあり、オンライン交流に課題が残る形となった。

②中国青年等との相互理解と友好

「この事業を通じて、あなたと中国の人々の相互理解が深まったと思いますか」及び「この事業を通じて、あなたと中国の人々との友好が深まったと思います

か」との問いに対して、日本参加青年の多くが5段階評価の4（深まったと思う）を選択した。一部の青年は3（どちらでもない）または1（深まったと思わない）を選択した。

相互理解に関して日本参加青年からは、「中国における面子文化ひとつとっても、こうしたプログラムに参加しなければ知ることのできなかった価値観であり、この事業を通じて、中国人に対する文化や価値観を尊重することができるようになった」「中国も日本と同じ課題を抱えており、また先行する日本の状況について強い関心を持っていることが分かった」などのコメントがあった。

友好に関して日本参加青年からは、「私達が中国の教育や文化などに触れることができたように、彼らもまた、わが国の価値観や歴史などに触れることができたといえ、友好関係に最も重要であるところの、“知る”ということができた。」「中国青年の方々が非常に日本人や社会、文化に興味関心を持ってくれていることを実際に感じる事が出来ました。」などのコメントがあった。

これらのことから、事業を通じて中国の価値観や文化に触れ、中国と日本の相違点や共通点の発見が相互理解と友好に繋がったと考察できる。

一方で、「事業を通して中国青年との交流時間がそこまで長くなかった。」「意見交流会以後のつながりが薄くなってしまった。」などのコメントがあり、一部の日本参加青年からは、中国参加青年との相互理解や友好を深めるための交流時間の短さを惜しむ声も挙げられた。

③事前研修及び事後研修の満足度

「事前研修及び事後研修をどのように評価しますか」との問いに対して、日本参加青年の多くが5段階評価の4（良かった）以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは、「日本代表としてオフィシャルな場での振る舞いを学べた。」「運営サポーターの方や講師の先生のお話が、自分の成長を助長させてくれた。」「自らを振り返ることで今後の目標を明確にできた。」などのコメントがあった。

これらのことから、参加青年は研修により自己理解を深めながらプログラムに参加し、自身の中で目標や課題を認識したと考察できる。

2. 日本参加青年の成長

①個人の能力の向上

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と事後研修時での能力の成長の変化について6段階（6＝十分備えている、5＝備えている、4＝ある程度備えている、3＝あまり備えていない、2＝備えていない、1＝全く備えていない）による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

- ・「コミュニケーション能力」：

4.6から5.1となり、0.5ポイントの増。

- ・「多文化に対応する適応能力」：

4.8から5.4となり、0.6ポイントの増。

- ・「チャレンジ精神」：

5.0から5.1となり、0.1ポイントの増。

- ・「ディスカッションを通じた問題解決能力」：

4.5から4.6となり、0.1ポイントの増。

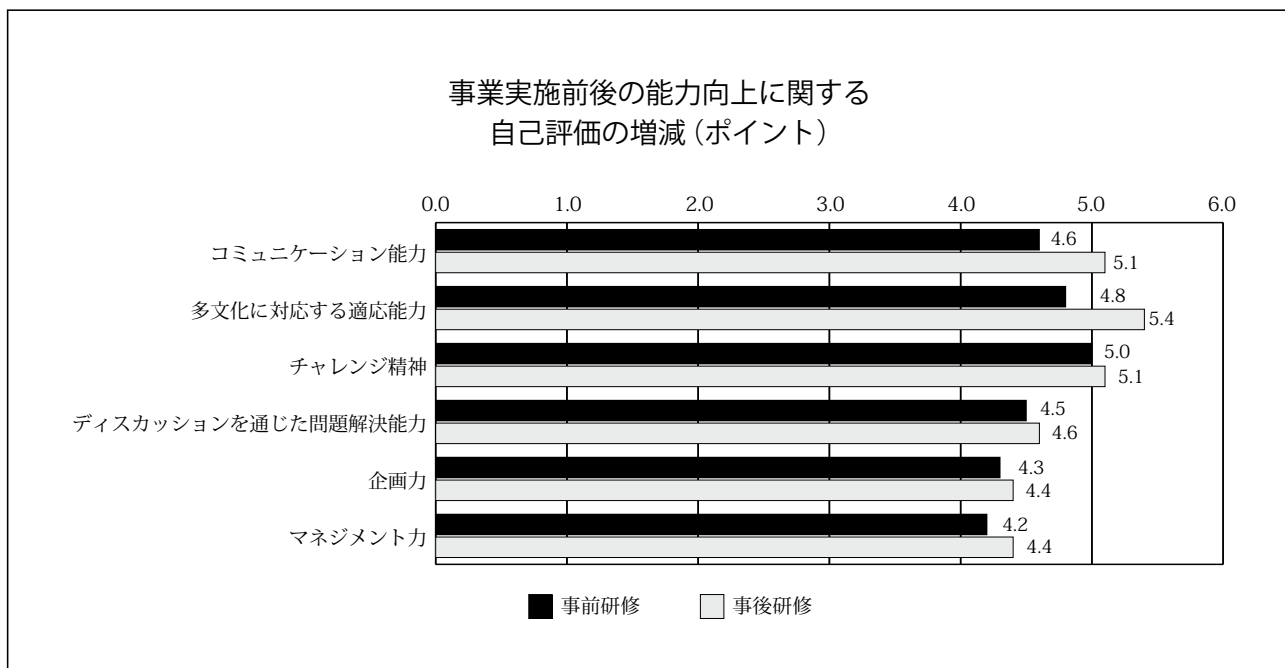
- ・「企画力」：

4.3から4.4となり、0.1ポイントの増。

- ・「マネジメント力」：

4.2から4.4となり、0.2ポイントの増。

（ポイント数については、小数第二位を四捨五入）



全ての項目において、事業参加後に能力の向上が確認できた。なかでも、「コミュニケーション能力」及び「多文化に対応する適応能力」に大きな上昇が見られた。

これらの項目に共通することとして、日本参加青年同士での課題への取り組みや、中国青年との意見交換など、多様な属性や背景をもつ青年達と実践的に交流を行った経験が能力向上に大きく貢献したと考えられる。

②個人の意識の変化

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と事後研修時での意識の変化について6段階（6＝非常にそう思う、5＝そう思う、4＝ややそう思う、3＝あまりそう思わない、2＝そう思わない、1＝全くそう思わない）による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

- ・「今後、海外に留学してみたい。」：

5.5から5.2となり、減少。

- ・「今後、海外で働いてみたい。」：

5.3ポイントから増減なし。

- ・「国際的な仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）に関わりたい。」：

5.5から5.6となり、0.1ポイントの増。

- ・「地域に貢献する仕事又は仕事以外の活動（ボランティア等）に携わりたい。」：

5.1から5.3となり、0.2ポイントの増。

- ・「仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）において、リーダーシップを発揮したい。」：

4.8ポイントから増減なし。

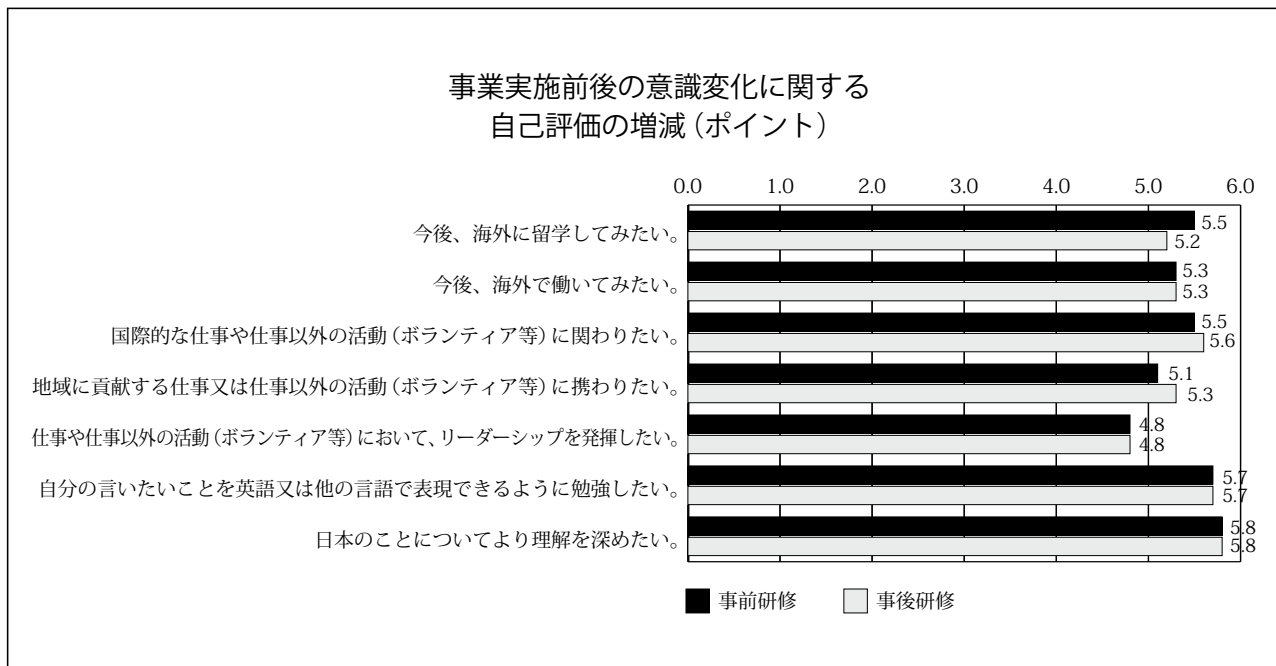
- ・「自分の言いたいことを英語又は他の言語で表現できるように勉強したい。」：

5.7ポイントから増減なし。

- ・「日本のことについてより理解を深めたい。」：
5.8 ポイントから増減なし。
(ポイント数については、小数第二位を四捨五入)

日本参加青年は事業参加以前から、設問内容に対する個人の意識が高く、本事業を経験したことによる大幅な変化は見られなかった。

しかし、海外への留学の項目のみポイントが減少していることから、オンライン交流の経験を通して、社会貢献活動や今後のキャリア形成などの留学目的は国内からでも目指すことができると認識するなど、意識に変化があったことが推測される。



III 総括評価

最後に、アンケートから日本参加青年のコメントを抜粋し、今回の総括評価をまとめる。

「事業全体をどのように総合評価しますか」との問いに対して、日本参加青年の多くが5段階評価中4（良かった）以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは、「事前研修や中国参加青年との意見交換を通じて、中国の文化・社会事情について深く学ぶ機会が設けられており、非常に充実したものであると感じた。」「公式な場で実際に国際交流ができたことはとても良い影響があった。またバックグラウンドが異なる日本参加青年と協力しながら交流を深められた。」「自己効力感を高め、自分の行動力を引き出すきっかけとなった。」「充実した内容であり、かつ安心感があった。また内閣府主催により、中国の優秀な青年と話すことができた。」「プログラムに積極的に取り組もうという気持ちが、回を増すごとに高まった。今後も継続して日中交流活動に何かしらのかたちで携わってほしい。」などのコメントがあった。

これらのことから、公式の場で国の代表青年として本事業に参加した経験がとても貴重なものであると認

識する参加青年が多く、参加したことをきっかけに自己成長や交流活動への意欲がより向上したといえる。

「事業参加を通じて、社会貢献活動を始めたい、参加したいという意欲などを持ちましたか」との問いに対して、日本参加青年の多くが5段階評価中4（ある程度意欲を持った）以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは、「今まで興味を持っていなかった気候変動、特に緑化・植林活動に興味を持ち、日本人として問題解決に取り組みたいと思うようになった。中国参加青年から、具体的な活動が身近なところでも行われていることを教えてもらい、意欲が増した。」「年齢、職業などに関わらずいろんな人が社会のために活動していることを知り、自分らしく社会に貢献したいと思った。」「交流を通じて新しい繋がりができたため、社会貢献活動に参加しやすくなったと感じる。」などのコメントがあった。

これらのことから、テーマに沿って主体的に学習をかさね、課題に対しても真剣に捉え意欲的に取り組んだ様子が窺える。また中国参加青年と意見を交わし、多様な意見を吸収し視野を広げたことで、社会貢献へ

の関心を深めた結果となった。

「この事業は、将来に役立つと思いますか」との問いに対して、日本参加青年の多くが5段階評価中4（役立つと思う）以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは、「日中関係に貢献したいと考えているが、事業を通して中国について理解することができた。」「将来も日中に関わる仕事に就きたいと考えているため、中国をよく知ることができた本事業は、必要不可欠だった。」「日本代表としての立ち振る舞いなどを学んだ。そして、チームワークに必要なものやスキルを身につけた。」「他国の文化を学ぶ事の重要性に気づけた。」などのコメントがあった。

これらのことから、多くの参加青年が本事業を通し中国の文化を理解し、より身近に感じられるようになったことで、仕事だけでなく人生におけるキャリアにおいても選択肢を広げる一助となったことがわかる。また課題の取り組みや日本青年同士の交流を深める中で、チームワークの重要性を認識し、団結力を高めるための技術を身に着けたことにより自身の成長につながったと考察できる。

今年度は日本参加青年同士の繋がりや交流に対しても高い満足度を感じているコメントも多く見受けられた。同じ目的を共有し共に行動することで自身や日本を新たな視点で見直すことができたという参加青年もあり、別の側面からも評価を得た結果となった。

本事業の目的である「日本と中国の相互の友好と理解の促進」に関して、中国に対する理解については参加青年からは高い評価を得られ、交流への意欲も高まっていることから、十分に達成できたと評価できる。

令和5年度
日本・中国青年親善交流事業
「日中代表ユースフォーラム」

発行：内閣府
〒100-8914
東京都千代田区永田町1-6-1
中央合同庁舎第8号館
TEL: 03-6257-1436
URL: <https://www.cao.go.jp/koryu>

編集：一般財団法人 青少年国際交流推進センター
〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町2-35-14
東京海苔会館6階
TEL: 03-3249-0767
URL: <https://www.centerye.org>

印刷：株式会社 長正社